

## 令和元年度おだわら市民交流センターUMECO第三者評価

### ○ 各委員の評価点の平均点（5点満点）

拠点	相談・支援	協働支援	学習・体験	交流	情報発信	男女共同	国際
3.8 (3.6)	3.8 (3.5)	3.1 (3.1)	3.7 (3.5)	3.4 (3.5)	3.2 (3.3)	3.0 (3.0)	2.8 (2.9)

誰でも気軽に	シェアしながら	地域の課題を解決する
3.9 (3.6)	3.2 (3.4)	3.1 (3.1)

※（ ）内は前年度の評価点

## I 機能の達成状況

### (1) 6つの機能

#### ①拠点機能【3.8点】

- ・登録団体数が目標値を超えるなど、多くの団体に市民活動の拠点として認識されている。
- ・活動エリアの稼働率が低い要因を、利用していない団体も対象にしたアンケート等により把握し、より活用しやすい場を提供していただきたい。
- ・企画展については、提案型協働事業との連携、若者の発想の取込、内容や期間の見直し、観覧者へのリサーチの充実等により、事業の活性化を図っていただきたい。

#### ②相談・支援機能【3.8点】

- ・相談件数が増加しており、市民活動に関わる相談対応窓口として積極的に取り組んでいる。
- ・相談対応が不十分な事例もあったため、研修等による職員のスキルアップ、Q&A集の作成等により相談機能をさらに充実させるとともに、創意工夫による利用者サービス向上に努めていただきたい。
- ・資金支援に関しては、市民活動応援補助金に係る制度の周知や事前相談の充実を期待する。また、クラウドファンディング等の寄附金に関する取組を研究し、寄附金を有効に活用できる制度を検討していただきたい。

#### ③協働支援機能【3.1点】

- ・地域に出向き、市民活動団体との連携促進に努めたことを評価する。また、社会福祉協議会との協働についても、引き続き取り組むべきと考える。
- ・協働の相手先となる事業者等が固定的かつ限定的であることから、より広い視野でマッチングを行うとともに、実施後における継続的なフォローアップや事業成果の紹介等にも努めていただきたい。
- ・地域活動団体ネットワーク形成事業において実績が目標値に達しておらず、従前からの課題でもあるが協力が文化事業面に偏っていることから、具体的な新規開拓手法を検討し、地域課題解決に向けて発展していくことを期待する。

#### ④学習・体験機能【3.7点】

- ・夏休みボランティア体験学習や出張講座等多くの事業を継続し、若者を含めた多くの市民や団体に、気軽な学習・体験の機会を提供した。
- ・NPO法人や企業、学生等、各主体のニーズに応じた支援を、ヒアリング等を通じ検討し、強化していただきたい。
- ・生涯学習事業と連携し、学習を経た市民が活動に参加する等、各団体も活性化できるような仕組の強化を期待する。

#### ⑤交流・コーディネート機能【3.4点】

- ・例年よりも地域課題の解決を意識した交流事業を行い、団体が同じ分野の団体や地域と連携できるよう努めた。また、学生を起用した取組を評価する。
- ・交流から市民活動の実践へと進むように、コーディネート力の向上など、方策の検討を行っていただきたい。
- ・参加する事業のテーマ等を明確に周知し、今まで参加していない団体も取り込んでいただきたい。また、趣味、教養といった要素が強いイベントを中心に、事業としての必要性やマンネリ化を避ける方策を検討していただきたい。

#### ⑥情報の集約・発信機能【3.2点】

- ・複数の媒体を活用して情報を発信しており、訴求力を高めた。
- ・フェイスブックの「いいね」数等、情報の受け手を意識した指標を設定することで、事業効果が明確になると考えられる。
- ・地域の方が団体を検索しやすいホームページ、メールマガジン等の若者向けの手法、スピード感がありわかりやすい情報発信、UMECOを利用していない市民へのアプローチ方法の工夫等、検討していただきたい。

### (2) その他

#### ①男女共同参画【3.0点】

- ・事業を継続し、男女共同参画に関する学習機会を提供した。
- ・適切なテーマ設定等を検討し、主体的に取り組んでいただきたい。

#### ②国際交流【2.8点】

- ・国際交流団体（特に日本語教室）に活動エリアを提供した。
- ・国際化に視点をあてた事業を拡大するとともに、団体の自主的な連携を後押ししていただきたい。

## II コンセプトの達成状況

#### ①誰でも気軽に つながりを生み出すきっかけの場【3.9点】

- ・多くの事業を通じて、市民活動を始める多彩な「きっかけの場」を提供しており、コンセプトをおおむね達成したと考えられる。

- ・趣味、教養といった要素よりも「きっかけの場」としてふさわしい内容を意識することが望ましい。特に学習・体験において、気軽に参加でき、その後も継続的に市民活動に関われるような工夫を期待する。
- ・UMECOを利用していない市民にアウトリーチを行ったり、NPO法人や事業者に働きかけたり、UMECOを訪れた若者を活動に誘い込むような取組を強化していただきたい。

### ②シェアしながら それぞれの思いがつながる行動の場【3.2点】

- ・事業を通じて団体等の連携や交流が見られ、次につながる「行動の場」づくりに取り組んでいる。
- ・すでに定着している「朗読」だけでなく、広く連携できる分野と団体を開拓し、「行動の場」としてさらに充実させていきたい。
- ・NPO法人を含む、新たな団体が参加したくなる仕掛けづくりや、団体同士の相乗効果を引き出すコーディネートを期待する。

### ③地域の課題を解決する 行動を社会貢献につなげる実現の場【3.1点】

- ・社会貢献を「実現する場」づくりを目指して、特に地域活動団体ネットワーク形成事業は地域でのヒアリングに取り組むなど事業改善に努めており、今後の展開が期待される。
- ・地域課題の解決に向け、現状は分野が偏っていることから、より多様な分野における地域活動団体のニーズを市民活動団体が知り、活動の実践につなげる場を設定していきたい。
- ・事業の実施にあたっては、連携により協働の発展が見込める事業者等の選定、SNS等を活用した参加機会の拡大などを意識していただきたい。

## Ⅲ まとめ

市民活動を始める多彩な「きっかけの場」を継続して提供している。特に今年度は地域課題の解決を意識して事業に取り組んでおり、評価することができる。各コンセプトの事業配分を調整しながら、社会貢献につながる「実現の場」の拡大を引き続き目指していただきたい。

また今後も、地域コミュニティ組織と市民活動団体をはじめとした多様な主体のニーズや特性を把握し、協働による相乗効果を引き出せるようにマッチングしていただきたい。

併せて、特にUMECOを活用していない若者や団体、NPO法人に対する働きかけの強化を行い、事業の活性化を図っていただきたい。

なお、付帯意見として、今回の新型コロナウイルス感染拡大は、市民活動にも大きな影響を及ぼし、事業実施にあたっての制約要因になっていることから、「新しい生活様式」を取り入れた今後の市民活動への支援として、コミュニケーション・ツールの活用などの検討を期待する。